

# 三木高大 自治会新聞

令和8年5月号 (No.192)

発行 三木市高齢者大学学生自治会  
発行責任者 自治会会長 谷口 邦一  
編集者 自治会新聞編集委員会  
発行日 2026年(令和8)5月26日  
<http://koureisya-daigaku.cccp.jp>

## 自治会会長挨拶

## 『知恵と力をお借りして』

このたび、令和8年度の学生自治会会長に選任されました谷口です。不慣れながら、これまでの諸先輩方の活動に敬意を払いつつ、新しい行事や女性役員の登用など多様な視点を生かした運営に努めたいと思います。

高大では、講義、スポーツフェスティバルやグラウンドゴルフ大会、大学祭などの行事、クラブや地域活動、学年ごとの日帰り研修旅行などの多彩なメニューが揃っています。学生自治会としてもこれらのメニューの充実を図り、後押ししたいと思っております。

無理なく楽しく、充実感を味わえる高大生活でありますように、皆さまの知恵と力をお貸しいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

学生自治会会長 3年2班 谷口 邦一



## 高大体育祭が7年ぶりに復活 !!

### 「みずほ スポーツフェスティバル」の開催



開催日時：令和8年7月1日（水） 9：30～12：00

開催場所：まなびの郷みずほ 体育館

高齢者大学の3大イベントとして、グラウンドゴルフ大会、体育祭、大学祭があります。そのうち、体育祭は令和2年10月に開催を予定しておりましたが、コロナ騒動で開催寸前に中止となり、以降コロナ禍がおさまっても学生数の大幅減により、開催が困難な状況が続いています。

今年度は入学生も43名と多くの方が入学されましたので、歓迎会を兼ねて「スポーツフェスティバル」を開催します。クラスの全員参加で団結力を高める絶好の機会です。

高大での楽しい思い出を作りましょう。



スポーツフェスティバル実行委員長 3年3班 細見 明夫

## 新学長就任挨拶

三木市高齢者大学学長  
澤田 薫



皆様、初めまして。このたび井上京子前学長の後任として本大学の学長を拝命いたしました澤田 薫でございます。令和8年度新入生の皆様とともにみっかいシニアカレッジの新入生です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

光陰矢の如し。春が巡り来て桜を見るたび、これまでのいろいろな春を思い出したり、あと何回見ることができのかなど感傷的になったりします。近年、そんな私を励ましてくれる歌に出会いました。それが、竹内まりやさんの「人生の扉」という歌です。20代は「fun」、30代は「great」、40代は「lovely」、50代は「nice」、60代は「fine」、70代は「alright」、80代は「still good」、そして「I'll maybe live over 90」と人生100年時代のメッセージソングです。そして最後に「君のデニムの青が褪せてゆくほど 味わい増すように 長い旅路の果てに 輝く何かが 誰にでもあるさ」「I still believe it's worth living」(人生には価値があると私は今も信じている)と歌います。

私たちがこれまで積み重ねた時間は決して無意味な時間ではなかったはず。これから一緒に新たな扉を開きましょう。そして学生自治会のお仲間とともに活動し、様々な出会いを通して楽しく価値ある新しい人生の春を謳歌してまいりましょう。



## 高大に入学して

5年ぶり2回目の高大入学となります。4月14日、桜が花びらを散らし、山々が緑に染まる時期、新たな出会い、新たな知識の習得に期待し、胸を膨らませて入学しました。

入学前の4月初旬、地元老人クラブで30名ほどの花見会があり、開会の挨拶をする機会がありました。その際、桜に関する話題として、今の自分の心境と重ね、江戸時代の禅僧・良寛の句とされる「散る桜残る桜も散る桜」を紹介しました。この句の解釈として、統べてのことが有限であることを受け入れ、今この時期をいかに充実して生きるか、感謝して生きるかということ。また、「今より若い時はない、今を全力で楽しみましょう」という話をさせてもらいました。これからの4年間、楽しいことを含め、いろいろなことが待ち受けていると思いますが、仲間と協力して慌てず、無理をせず、少しだけ背伸びをしながら、少し高みを目指して、充実した日々を過ごしていきたいと考えていますので、皆さんよろしくお願い致します。



1年2班 原 学

## 井上前学長退任挨拶

三木市高齢者大学  
前学長 井上 京子



若葉の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、この度3月31日をもちまして三木市高齢者大学学長の職を退任いたしました。皆様からの温かいご支援とご協力のおかげで職責を全うすることができました。心より感謝申し上げます。

着任当初、近年減少傾向にある入学者数、そこへコロナ禍と重なりさらに影響がありました。学生・学生自治会・講師・市当局・事務局・運営委員会の皆様方のご協力を得ながら大学改革に取り組みました。元気でハツラツとされた学生に合わせて三木市高齢者大学の愛称を「みっきいシニアカレッジ」としてイメージチェンジをはかりました。また、卒業後も生きがいづくりや学びの場として活躍していただけるよう再入学制ができました。大学院の専門講座内容は研究に重きをおきました。学生自治会様も行事の精選や役員の負担を減らすなどスリム化に取り組みました。

お陰様で、近年入学者も増加傾向にあり、皆様の入学への口添えやお誘いがありがたく思います。今後も「みっきいシニアカレッジ」が楽しく充実した大学になりますよう盛り上げてください。

最後になりましたが、皆様が心身の健康を保ち、ご活躍されますことを願っております。学生の皆様と親しくしていただき楽しい7年間でした。お世話になりました。ありがとうございました。

## 専門講座「郷土史学科」

## 三木城攻め最後の場 実地研修に参加して

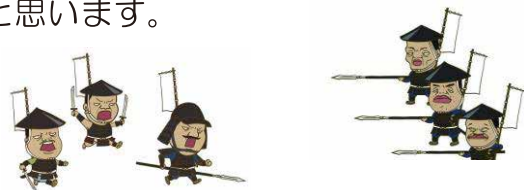
郷土史学科を共に学ぶ有志のお世話で、昨年12月22日(月)、郷土史学科講師で三木市文化財保護委員の宮田逸民先生のご案内により、落城寸前の三木城周り史跡を探索しました。

先ず、三木市役所の南、勤労体育センターの裏山に案内され、ここが秀吉側の「鷹尾山城」跡だと聞きました。外堀の内側で三木城が目の前にあり、市街地も一望に見渡せるこんな近くの場所に秀吉方が陣取ってきたのです。更に、市役所の西側で、歴史博物館のある二の丸跡との間の中堀の内側、今の住宅地が秀吉の弟の秀長が進出した新城跡と聞いて、ことここに至った時、多くの家臣や住民、協力者、愛する妻と幼き子どもたち家族を抱えた若き別所長治公はどんな心境だったろうかと悲壮な思いが頭をよぎりました。一方、その後の鳥取城の「飢え殺し」というような残酷な作戦も厭わなかった秀吉が、一気に攻めずに、長治公にはなぜ自決の機会を与え、その後の三木の復興にも力を注いだのでしょうか？



宮田先生ご提供資料

それにしても何故このような残酷で悲惨な結果を招く戦争をはじめてしまったのか？情報の欠如？無用のプライド？義理？これからの郷土史の講義の中で、なぜ解きしていこうと思います。



4年1班 眞子 琢仁

## 自治会新役員紹介

会 長	谷口 邦一			3 年生
統括総務	井上 政明			3 年生
会 計	光川 敏明			兼 2 年総務
広 報	坂本 美枝子			3 年生
監 事	小原 武			3 年生
学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
副 会 長	原 学	横山 茂彦	竹内 貴子	安福 浩
学年総務	田中 清子	光川 敏明	井上 政明	下山 皖司



本年度の自治会では、活気ある運営を目指した取り組みがスタートしました。

今年度の大きな特徴は、行事の充実と多様な意見の反映にあります。まず、恒例行事に加え、新たに「スポーツフェスティバル」を開催することとなりました。高齢者の皆さんが無理なく楽しめる軽運動の競技を中心に、健康づくりと親睦を深めることを目的としています。また、現在の在校生の内6割が女性であることから自治会活動に幅広い視点を取り入れるため、女性役員を積極的に配置しました。これにより、日常の活動や行事運営において、これまで以上にきめ細やかな配慮や多様な意見が反映されることが期待されます。誰もが参加しやすく、安心して関わられる自治会づくりを進めてまいります。

新役員一同、会員の皆さまとともに、明るく楽しい自治会活動の推進に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

統括総務 3年2班 井上 政明

## 学年通信（2年生）

### 「出石研修旅行記」

3月17日、春が来たような麗らかな晴れの日、研修旅行に出石へ行きました。

入学以来、初めての企画で、往路は有志による「出石の歴史」についてのレクチャーがありました。出石では、観光協会の主任ガイドの案内で漆喰壁の古い商家が並ぶ街道めぐりや、映画で一躍有名になった芝居小屋「永楽館」で、昭和初期へのタイムスリップを楽しみました。

何回か来ている出石では、「辰鼓楼」、「出石そば」しか知らなかったのですが、明治から昭和初期に、繊維産業が興り、豪商の遺産(町並み)が残る礎を作りました。今も町の中心部に、当時の繊維工場の名残が見られます。

帰りのバスでは、幹事さんの司会で、ビンゴゲームを楽しみ、大盛り上がり、番号発表や、賞品に工夫があり、時を忘れさせてくれました。

私自身、このようなバス旅行は久しぶりで、帰りのバスの車窓から山々が夕景に染まっていく様を楽しみつつ、お隣さんと話しをしながら、これからも楽しく人生を送ろうとの思いを共有しました。バスを降りて帰途につきながら、ふと幸せな気分を感じ、高大に入っ



2年3班 小阪 登茂